

フトモズク養殖技術に関する研究

研究部

背景、目的

フトモズクは、県内の天然生産量は2～3トン／年と少なく、単価も高いことから冬季の有望な養殖種になるものと期待されます。

そこでフトモズク養殖の実用化を図るため、安定生産と量産化に関する技術開発を行いました。



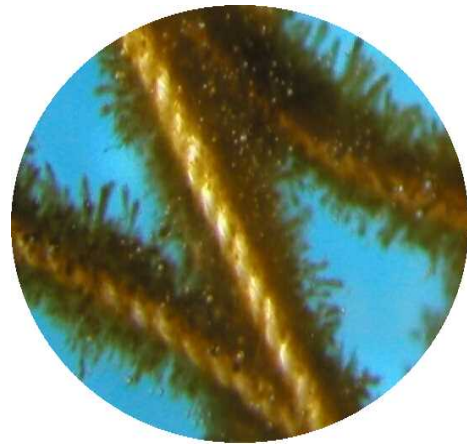
成果の概要

(1) 種付け技術

培養液の改良、照度管理技術等の開発によって、屋外で大量に種付けができるようになり、計画的な生産が可能になりました。

(2) 中間育成

屋外陸上水槽で約1週間育苗後、海面での中間育成を開始することや、海面での大規模な省力化施設の開発、網洗浄機の導入等により、漁業者による海面での中間育成が可能となりました。



中間育成中の種網（藻体の長さ 2～3mm）

(3) 海面養殖

前記の施設開発及び網洗浄機導入、また養殖網の大型化（長さ2m→18m）等により、収穫量の安定とさらなる省力化が図られました。

漁業者による試験養殖の結果、芥屋、野北、深江、志賀島、奈多、西浦、地島の7箇所では養殖が実施されるようになり、平成23年度は、養殖面積は3,654㎡、生産量は9.4トンでした。



網洗浄作業と大型養殖網